



いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

「みとめあうってすてきだね」4

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？
市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

くれよんのくろくん なかやみわ／さく・え 童心社

みんなでお絵かきをはじめたくれよんたち。でも、くろくんだけは「きれいにかいた絵をくろくされたらたまらないよ」となかまにいられてもらえません。そのうちけんかがはじまって…。

おかえりなさいスポッティ マグレット・E・レイ／文 H・A・レイ／絵 中川健蔵／訳 文化出版局

うさぎのおかあさんに、赤ちゃんうさぎが生まれました。みんなまっ白で、ピンクの目と鼻をしてるのに、最後に生まれたスポッティだけ、体中に茶色のもようがあって、青い目なのです。

あかいほっぺた ヤン・デ・キンデル／作野坂悦子／訳 光村教育図書

私が軽い気持ちで言った「へんなの、まっかだよ。」というひとことがきっかけで、トムがパウルにいじめられるようになってしまった…。どうしよう、とめなくちゃ。でもパウルがこわくて言いたせない。

わたしいややねん 吉村敬子／文 松下香住／絵 偕成社

「わたしでかけるのんいややねん」「みんなじろじろ見るからいややねん」「わたし宇宙人^{うちゅうじん}とちがうでエ」「なんで見なあかんのん」…。車いすに乗っている人の気持ち、考えたことはありますか？

ぼくだけのこと 森絵都／作 スギヤマカナヨ／絵 偕成社

右のほっぺにえくぼがあること、蚊^かにさされやすいこと、さかだちあるきができること、おとなりの犬のチャッピーにほえられないこと、これってみんなぼくだけのこと。これからもきっと見つかるよ。

メガネをかけたら くすのきしげのり／作 たるいしまこ／絵 小学館

わたしのクラスではだれもメガネなんてかけてない。わらわれるから、ぜったいにいや！ある日、おかあさんがメガネをかけて、はりきってごはんをつくった。わたしもためしにかけてみたら…。

ふしぎなともだち たじまゆきひこ／作 くもん出版

ぼくのクラスのやっくんは「自閉症^{じへいしょう}」というしょうがいがある。うまくしゃべれないし、外へ出ていってしまうこともある。だけど、ことばじゃなくて心でわかりあえるふしぎなともだちだ。

ひとりひとりのやさしさ ジャクリーン・ウッドツ／文 E.B.ルイス／絵 さくまゆみこ／訳 BL出版

クローイのクラスにマヤという女の子が転校してきた。でも、みすぼらしいかっこうのマヤは、なかまに入れてもらえずひとりぼっち。マヤがあそびにさそっても、みんな知らんぷり。そのうち、マヤは学校に来なくなってしまった…。